

支援部だより



平成30年2月5日発行

第5号

宮城県立名取支援学校支援部

居住地校学習についてアンケートを実施しました

先日、今年度の居住地校学習について、受入校の先生方、保護者の皆様、本校の引率教員対象にアンケートを実施しました。

今回は、寄せられた回答の中から一部を紹介します。

【受入校対象アンケートより】

受入校の児童・生徒の様子や変容について

<小学校>

- ・毎回、一緒に活動することを楽しみにしていました。
- ・回を重ねるごとに、自然に交流ができるようになってきました。
- ・児童は進んで声を掛けたりゲームをしたり、親近感を持ってかかわっていました。

<中学校>

- ・継続することで、自然にかかわることができていることが素晴らしいと感じています。
- ・よい刺激を受けることができました。小学校で同じクラスだったこともあり、久しぶりに会えることを大きな喜びとしていて、準備や当日の授業も積極的になりました。
- ・給食後に廊下で何人かの生徒とおしゃべりをしていて、お互いにうれしそうでした。



受入校にとっての居住地校学習の意義とは？

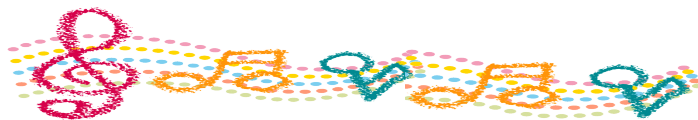
<小学校>

- ・同じ地域で暮らしている友達として交流することで、お互いを知ることができる学習だと思います。
- ・地域の友達を知り、お互いを理解し、助け合っていく気持ちを育てる良い機会となっています。
- ・地域で顔を合わせた時に、名前を呼び合えるようになればいいと思います。

<中学校>

- ・このような交流を通じて知り合うことは、災害時等においても重要な役割になっていると考えます。
- ・互いに刺激になり、人間関係の広がりにもつながるようになります。
- ・お互いの変化を感じ、それぞれの良さを認め合い、共に生活していくきっかけになるはずです。
- ・地域の特別支援の様子を知ることができ、視野が広がります。

【保護者対象アンケートより】



お子さんの様子について

<小学部>

- ・1回目は泣いてしまい、なかなか慣れませんでした。最後には笑顔も見られ、他の子どもたちと一緒に楽しく遊ぶことができて良かったです。
- ・本人は、「楽しかった。また行きたい。」と言っていたので、次回も参加させたいと考えています。
- ・知っているお友達や先生方もいたので、みなさんに声を掛けていただき、すぐに馴染めて楽しく活動できたようなので、とてもうれしく思います。
- ・半ば思い出づくりのような気分で参加したものの、終わってみると、わが子がこの地域で生活していくために重要なこと、第一歩だったのだと思いました。

<中学部>

- ・一日友達といっしょにお勉強したり、給食を食べたり、楽しく過ごせたことが何よりでした。今後も続けていきたいと思います。
- ・地域の学校での活動。小学校まで一緒に過ごしたお友達との久しぶりの再会。忘れられない存在でいてほしいと願う親にとっても心が温まりました。
- ・活動で作った物をうれしそうに見せてくれ、楽しく活動することができたようでした。

【引率教員対象アンケートより】

当日の児童生徒の様子について

<小学部>

- ・スケジュール表を作り、事前に説明したことで、見通しをもって臨んでいました。
- ・多少の緊張はありましたが、臆することなく自分から新しい環境、新しい人との出会いに入っていました。とても楽しそうにしていました。
- ・受入校の先生方にたくさん声を掛けられ、元気に応えていました。
- ・緊張したり戸惑ったりしながらも、どの活動も楽しく参加できました。

<中学部>

- ・本人の希望で通常学級の生徒とも交流ができ、良かったです。
- ・小学校時代のクラスメイトと一緒に活動することを楽しみにしていて、どの活動も意欲的に参加できました。
- ・回を重ねるごとに、生徒同士が打ち解けていく様子が目に見えて分かりました。



来年度の居住地校学習について

小1～中2の保護者の方に、来年度の「居住地学習参加申込書」のプリントを配布致しました。自分の住んでいる地域の学校での交流学习は、児童生徒にとっても大変良い経験になるとともに、先方の学校の児童生徒にとっても実りある学習になっているようです。多くの児童生徒のみなさんに参加していただければと思います。

この面談でも話題にあげさせていただきますので、よろしくご検討のほどお願いします。